

## 2. 総合的な河川管理について

### (1) 農業用施設の整備について

Q 河川に設置されている農業用の堰について、農業用水を十分に確保する上で大切な施設であることは言うまでもないが、河川の治水対策を一体的に講じていく上で、今後どのように整備していくのか。



A 頭首工等農業用の堰の多くは、築造年代が不明で、老朽化が進んでおり、構造もコンクリート造りや石積みなど河川内に固定されたものが多い。今後は、河川管理者や利水者と調整しながら、治水・利水両面から工法を十分に検討し、転倒ゲート等の可動堰への変更なども含め、経済性・緊急性等を考慮して、計画的・効率的に整備を進めていく。

### (2) 国・県・市町の連携について

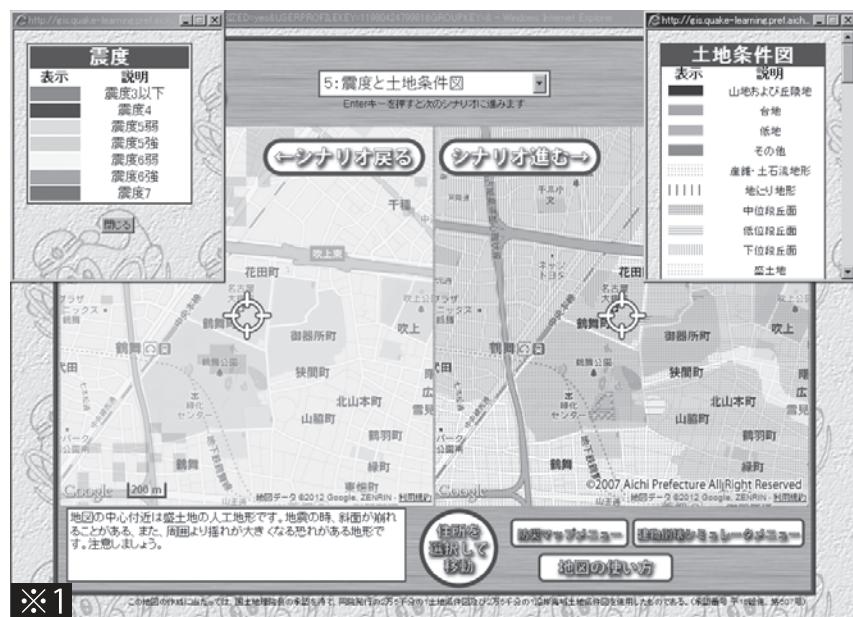
Q 河川によっては、上流、中流、下流で、市町、県、国と管理が違う河川もあるが、河川の管理について、どのように連携しているのか。

A 河川法においては、一級河川の管理は、国土交通大臣が行うとされており、複数の管理者が管理する場合でも、河川整備の目標とする流量等を定める「河川整備基本方針」は、国が策定することとなっている。その方針に基づき、概ね20～30年の間に実施する改修工事や維持工事の区間や内容等を決めるには、それぞれの河川管理者が、国、県、関係市町、地域住民や学識者の意見を聞き、「河川整備計画」を策定している。そして、その事業実施に際しては、「事業連絡調整会議」や「河川堆積土砂撤去推進調整会議」等において、国、県、関係市町と情報共有や調整を図っている。今後とも、これらの場を利用して、河床掘削をはじめとする維持管理も含め、より一層国、県、市町の連携を強化していく。

## 3. 予想される自然災害の周知について

Q 三重県のホームページでは、「土砂災害情報提供システム」、「浸水想定区域図」「地震動メッシュ」を見ることができるが、各々ばらばらに掲載されており、見にくいので、「愛知県防災学習システム(※1)」のようにひとつのシステムでいろんな防災情報を見れるようなシステムを作り、周知することはできないのか。

A 現在、地図データを表示する県の「M-GIS」を活用して、「浸水想定区域図」「地震動メッシュ」を提供しているが、一元化されていないので今後見やすいうように検討していく。



※1

参考 「M-GIS」とは、三重県(Mie)が公開する、誰もがどこでも持ち運んで(Mobile)使用することができる簡易型(Mini)のGISアプリケーションで、現実社会の様々な位置や場所に関する情報を、コンピュータ上で扱えるようにデジタル化、データベース化及び関係付け(リンク)を行つて、コンピュータ上で仮想空間を表現させ、分析・加工・測定・シミュレーション・保存・意志疎通等を行えるシステム

## 4. 迅速な対応に向けた防災情報の共有化について

Q 現在、「防災みえ.jp」のメール配信サービスは、①気象警報・注意報②地震情報③津波警報・注意報④東海地震関連情報⑤台風情報⑥河川水位(紀伊半島大水害等を踏まえ、県民の早期避難行動を促すため、平成24年5月から配信が開始)情報などがあるが、通行止めの情報であったり、鉄道の運休の情報等も加えることはできないのか。また、「防災みえ.jp」のホームページでは、そのような情報が掲載されているが、スマートフォン用のホームページの開設については、どう考えているのか。

A 避難等緊急な対応を促すものを「防災みえ.jp」のメール、それ以外をホームページで対応している。スマートフォンへの対応については、検討していく。

## 5. リニア中央新幹線の東京大阪間同時開業に向けて



駅予定位置(品川、相模原市、甲府市附近、飯田市附近、中津川市西部、名古屋)

Q 未だ未確定の中間駅の着実な設置および東京・大阪間の全線同時開業の促進を図るために、本年、三重・奈良両県の同盟会と経済団体の連携による「三重県・奈良県リニア中央新幹線建設促進会議」で採択された共同アピール(※2)に対して、三重県としてどう受け止め、具体的にどうしていくのか。

A 今回の共同アピールは、名古屋以西の中間駅設置予定県である本県と奈良県、両県の経済団体が一丸となって、全線同時開業や三重・奈良ルートの実現等について取り組んでいく決意を表明したものであり、非常に意義がある。

12月には、東京において、4者で全線同時開業の必要性を広く訴えていくとともに、国やJR東海等への要望活動を行っていく。また、中間駅については、その便益が本県、ひいては紀伊半島全体に波及するような交通結節性の高い位置への設置が不可欠で、リニアの効果を最大限生かしていくためには、アクセス道路をはじめ、中間駅と県内各地との所要時間を短縮できる方策を検討していく必要がある。そのためにも、県内の概略ルートや駅の概略位置を早期に示していただくよう、国やJR東海等へ働きかけていく。

### ※2 共同アピール

- ①リニア中央新幹線は、東京・大阪間の全線が開業されて初めて、その効果が遺憾なく発揮されるものであり、早急に、全線同時開業に向けた検討を実施し、その方策を示すこと
- ②リニア中央新幹線は、災害リスクへの備えとするため、東海道新幹線のリダンダンシー機能を備えたルートである三重・奈良ルートとすること
- ③三重・奈良ルートの中間駅は、その便益が紀伊半島全体に拡がるような、交通結節性の高い位置に設置すべきであり、三重県、奈良県の意見を十分に反映し、早急に駅の概略位置を決定し、公表すること

## ◇県政報告会を行っています

203回	10月19日	亀山市関文化交流センター	207回	11月03日	萩原公民館	211回	11月18日	小野地区集落センター
204回	10月20日	明神公民館	208回	11月04日	金場公民館	212回	11月24日	市場公民館
205回	10月24日	久我公民館	209回	11月10日	富士ハイツ公民館	213回	11月25日	下白木公民館
206回	10月28日	古厩公民館	210回	11月17日	亀山市林業総合センター	214回	11月25日	城東地区コミュニティセンター